入選

命をつなぐ水

黒部市立清明中学校　二年　村上　遥菜

「ただいま。」

新型コロナウイルスの収束が見えない今、家に入ると手洗いをするのが日課になった。手洗いをしていると、目の前には「節水」という漢字二文字。「ちょっとくらいならいいでしょ。」私はいつもそう思いながら、水を出しっぱなしにしていた。そのちょっとが世界では当たりまえではないことを知っているつもりだったのに。

私は、最近「生きるためには、飲むしかなかった。」というフレーズをよくコマーシャルで耳にする。私は、そのフレーズを耳にするたびに小学校のことを思い出す。私は小学校で水がなくなったらどうなるのか。という問いに答えることができなかった。なぜなら、毎日当たりまえのように水を飲んだりお風呂に入ったりしていたからだ。水不足の国のことなど、想像もできなかった。私はずっと疑問に思いネットで調べてみた。すると、目の前には、ＳＤＧｓ～持続可能な社会～という文字。さらに詳しく調べてみると、ＳＤＧｓの項目に「全ての人に安全な水を」という目標があった。私は「安全」という言葉が頭の中でひっかかった。安全？水は安全じゃないの？と思ったがよく思い出してみると、「生きるためには、飲むしかなかった。」というコマーシャルで女の子が飲んでいたのは、泥でにごった池の水だった。日本のような蛇口からきれいに透きとおった水と比べるまでもないほどだ。他にも水不足で仕方なく泥でにごった水を飲んでいる人がたくさんいることが分かった。

水不足で困っている人がたくさんいる今、私たちにできることは「節水」だと思う。私は「節水」という二文字にこめられた思いがようやく分かった気がする。水をこまめにとめる。無駄な水を使わないようにすることは、今からでも、みんなができることだ。一人一人が「節水」を心がけることで、一人でも多くの人の命が助かればいいなと思う。

「永遠に水が飲めますように」

私はいつまでもそう願う。